

ビオトープの再生・管理 生物多様性への貢献の第一歩

調査による現状把握から今後の維持管理計画まで



暮らしをとりまく生物多様性

日本列島は、南は湿潤な亜熱帯から北は寒帯まで、変化に富んだ気候帯と生態系を有し、生息する脊椎動物のうち約4分の1が固有種であり、日本列島全体が生物多様性ホットスポットに指定されています。

生物多様性は、それ自体も価値を有していますが、私たち人類に多大な利益をもたらす生態系サービス*の基盤であり、私たちの生活を根底から支え、様々な恵みをもたらしてくれます。

一方で、近年、生態系サービスの低下が進行しており、解決に向かわない場合は、将来世代が受ける利益が大幅に減少するとされています。

*生態系サービス：生態系がもつ機能のうち、水や食料、気候の安定など、人間が生きていくために必要な恩恵のこと。
国連の「ミレニアム生態系評価(MA)」では、生態系サービスは、1) 供給のサービス、2) 調節的サービス、3) 文化的サービス、4) 基盤的サービスの4つに分類されている。



生物多様性に向けた玉野のスタンス

●生態系の多様性



森林、草地、湿地等、様々なタイプの自然があり、様々な生態系があります。生態系の多様性は種の多様性の源です。

環境省の重点施策である「生物多様性」一。

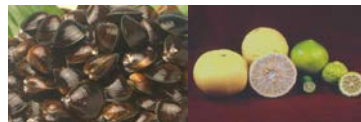
平成22年10月には、名古屋国際会議場でCOP10が開催されました。玉野では、国民的意識の高まりを見せている「生物多様性」について、身近なところから取り組めるように、**すぐにも活動できる身近なメニューを抽出・検討し、地域にあった目標を設定**することで実効性のあるビオトープの再生・管理に寄与します。

●種の多様性

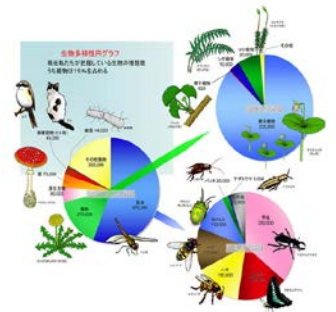


気候、土壌等の様々な環境条件に応じて、生物種が生息します。種がひとつ欠けても生態系のバランスは崩れてしまいます。

●遺伝子の多様性



同じ種の中でも遺伝子の違いによって個体の形状や行動が異なります。同種内にも多様性を持ち環境の変化に対応します。



生物多様性をはぐくむビオトープや緑地、埋もれていませんか？

様々な動植物をはぐくむビオトープや緑地も、放置すると自然の遷移(節理)にしたがって変化します。そのため、放置すると、次第にヤブ化する、池が浅くなり陸地化するなどの変化が生じ、動植物の生息・生育の場として適さない場所となってしまう可能性もあります。

人為的に創出されたビオトープや、保全された緑地等が十分に機能を発揮するためには、**目的とする姿(ビジョン)をもった、適切な維持管理**が必要です。

せっかく整備したビオトープや保全した緑地などの管理や活用方法についてお悩みではありませんか？

多様な動植物の暮らしを支える場として、**適切な管理によって回復・再生**しませんか？

玉野がそのお手伝いをいたします。



荒れてしまった
ビオトープ・・・

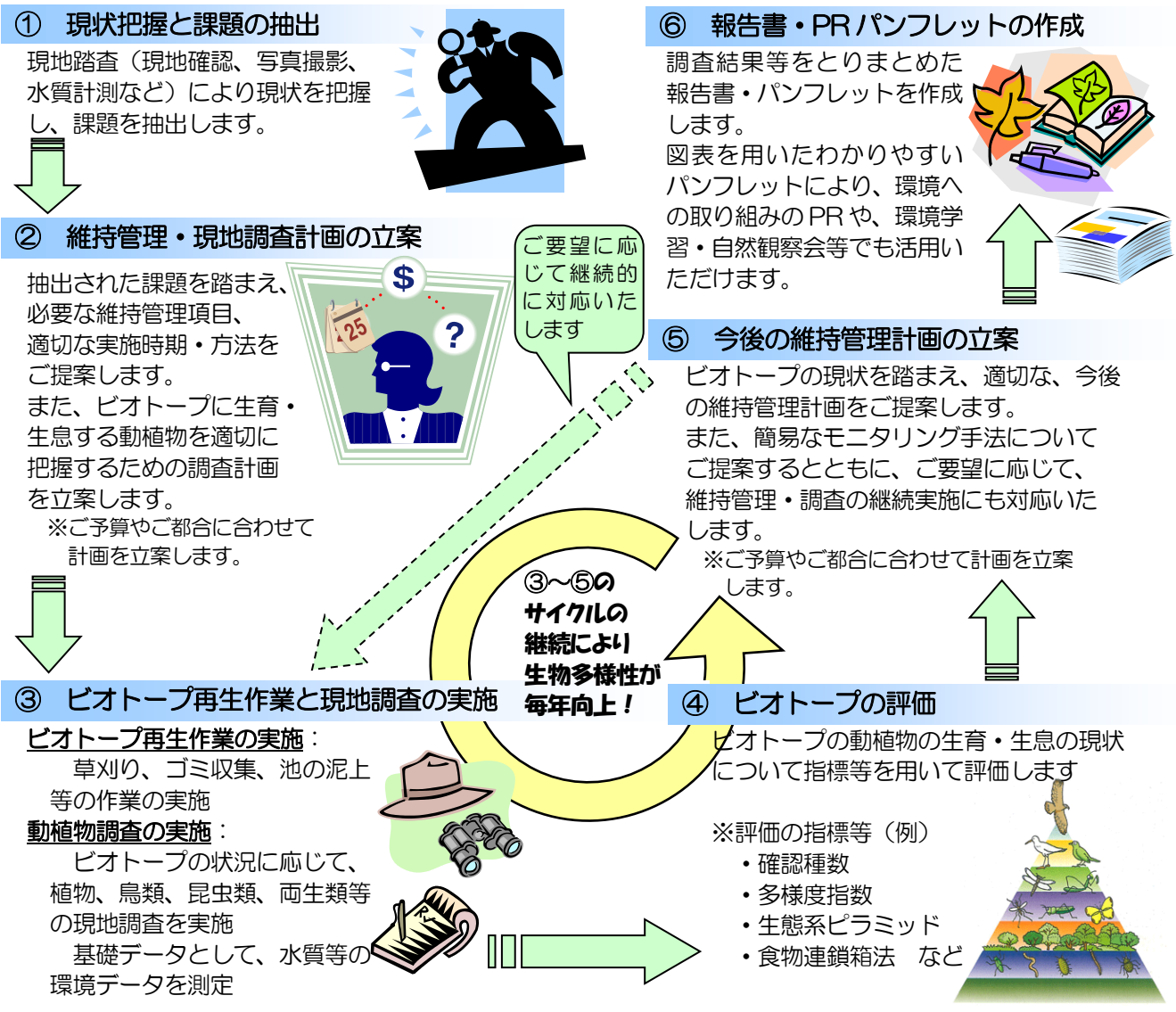


適切な維持管理
・現地調査の実施



有効活用！
生物多様性への貢献！

適切な維持管理によりビオトープや緑地を回復・再生します！



様々な場面で活用可能な資料を作成します！

- 環境への取り組みのPR資料として
- 環境教育等への有効活用
- イラストや数値など活用した見える化
- 今後の維持管理のマニュアルとなる資料



様々な活動に活用可能な、子供から大人まで、みんなにわかりやすい資料を作成します！

ご予算に応じたビオトープ回復・再生のプランをご提案します！

ビオトープ再生作業や動植物の現地調査は、作業量や実施回数等により、異なった成果が得られます。
 そのため、ご要望とご予算に応じて、最適な成果が得られるようにビオトープを回復・再生する維持管理プランをご提案します。まずは、お気軽にお問い合わせください。

ご提案プラン例
<プラン1：50万円～>
 ・維持管理作業：1回（草刈+池内ゴミ収集）
 ・動植物調査：夏季1回（植物、鳥類、両生類、魚類、昆虫類）
 ・評価・検討・資料作成：1式